

第4回品川区庁舎機能検討委員会 意見書のまとめ

1 区民向け広報について

番号	意見の内容
1	広く区民の方には知って頂くためには有用なだと思います。
2	分かりやすく見やすいです。
3	内容は伝わっていると思います。
4	この広報ニュースは何処へ行けば手に入りますか？区民の身近な場所で手に取ることが出来ないと、広報ではなく検討委員会の事実確認になってしまいます。
5	WEBと紙媒体で行うやり方を継続して頂くのが良いと思います。
6	2頁目「サインはデザイン重視でなく、情報弱者の視点で検討してほしい。」との意見について。 見栄えや装飾性に偏ったサイン計画は確かにあるのでご主旨はよく分かりますが、サイン計画全般におけるデザインとは本来、使い勝手や視認性の検討まで含めた概念です。従って「デザイン重視でなく」という言い方には語弊があります。この点、「ユニバーサルデザインについて」でも言及します。
7	新庁舎の機能検討が行われているということ自体が区民にはほとんど知られていないのが現状のため、機能検討委員会の議論の内容について、広く区民に知らせるよう求めます。ニュースを含めた広報については、区報、区ホームページ、SNS、ニュースの配布先を増やすなど、周知をさらに広げるよう求めます。ニュースの内容についても、簡素過ぎるため、出された意見の多くが未掲載になってしまっています。情報量を増やし、必要ならページ数も増やし、さらに内容を充実するよう求めます。
8	会議毎の区民向け情報発信、とても重要なことで、丁寧に対応されていると思います。

9	<p>広報を、例えばホームページに掲載した際のアクセス件数、区役所関連施設でのチラシ配布が配布枚数、あるいは、回覧板等で町会を通じた回覧を行っているか、等の会議結果を組みにフィードバックしている状況がわかれば教えて頂きたい。</p>
10	<p>各回分を確認いたしました。A4版一枚表裏にまとめるご苦労感じます。区民に対し新庁舎建設がなぜ今なのかを各回記載されてもいいのではと思っています。より多くの区民の方に理解いただくため、お知りいただくため有効かと思えます。</p>
11	<p>品川区庁舎機能検討委員会ニュース紙面上で色分けされたタイムスケジュール、新庁舎建設候補地が明記され、迅速な具現化に感謝申し上げます。</p>
補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会ニュースの配布先について（公共施設・町会での回覧） 各地域センター、各図書館であらかじめ枚数を決めて配布はしていますが、配布状況などは追跡していません。 ・ホームページのアクセス数について 本事業に関するお知らせは、庁舎機能検討のタイトルページの他に、第1回からの委員会の開催概要のページを作成しています。毎月約1,000～1,500件程度のアクセス数で7月からの累計が約1万件となっています。

2 ライフサイクルコストについて

番号	意見の内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード面での支出抑制 修理交換の容易な部材採用、コロナ禍で空調が重要視されるが、採光、外気取り入れなどを採用してもエネルギーロスの少ない仕組み
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト面での支出抑制 経費として大なのは人件費関連であり、無駄のない動線の確保や、清掃メンテが容易な構造やレイアウトが必要。
3	<p>環境及び耐震性能などについては、稼働後のコスト上昇を防止するためにも、財政的に可能な範囲で配慮した計画が望ましい。</p>
4	<p>4ページ→メンテナンスや補修作業がしやすい建物や設備であると良い。また、植物はすぐに大きくなり、こまめに管理を続けないと美観を損ねる。植物の管理法に工夫が必要と思います。</p>

5	ライフサイクルコストの低減を図るため、維持管理がしやすい形状をした建物を設計するべき。
6	イニシャルコストが多少多くかかってもランニングコストでどれだけ少なくすることが出来るかのバランスを検討する必要がありますが、検討で外部委託をするときに、検討条件を細かく明確にしておかないと誤差の大きい報告が出てきますので注意が必要です。
7	超高層より中高層の方が変化に対応し易くランニングコストも抑えられます。
8	<p>ランニングコストの修繕費においては、建築・電気・空調・給排水それぞれの管理対象物には耐用年数がある。修繕費は高くても予算をしっかりとつけないと維持できない。※防水・タイル・クロス・床・内部木製建具・外部金属建具・アスファルト・高圧受電盤・電灯動力盤・内部照明・外灯・スイッチコンセント・空調・換気・給水・排水・トイレなどの衛生</p> <p>すべてにそれぞれの耐用年数があるので、定期的に5年・10年・15年からと、修繕することで建築物の維持・管理ができる。現在の庁舎は天井壁クロスもトイレも床も汚い。照明は暗い。</p>
9	<p>戦後日本の公共建築物のうち、とくに庁舎や税務署といったオフィス建築は、市民の眼に遠慮して質素で廉価に建てる期間が（バブル期を例外として）長かったように思います。華美な庁舎を要望するものではありませんが、耐震、耐候性や省エネ等、基本性能の向上にかかわるイニシャルコストの上昇は明確にしておく必要があります。そのかわり、建築の構造は新しい概念によって頻繁に更新されていくというものではないから（鉄骨造も鉄筋コンクリート造も150年近い歴史があります）、法定耐用年数や一般論にとられることなく、100年や150年といった長寿命を想定したライフサイクルコストの試算があっても良いのではないのでしょうか。「大地震後に構造体を補修することなく継続使用できる」ほどの強度を持つ構造体を、過去の日本的スクラップ&ビルドの時間感覚で消費する必要はないと思います。</p> <p>また、仮にイニシャルコスト＝建設費と予算との折り合いがつかないようであれば、高スペックを維持しつつ、しかし可能な範囲の規模で建設することも考えられます。現庁舎の低層階周り動線や高低差があまりに煩雑であることの反動から、全機能を単一の建物に収容すべきという話になりがちですが、適切な部署の割り振りを行えば分棟形式は必ずしも悪いことではありません。</p>

10	シンプル・イズ・ベスト の一言につきます。小職の経験値による具体的提案は、照明はLED主流となり点灯時間は長く持ちますが、高天井・間接照明等のランプ交換時に手間がかかる点は注意事項です。
----	---

3 将来の変化への柔軟な対応について

番号	意見の内容
1	スペースの用途変更が容易な仕組みが必須。
2	天井板を省略している事例があるが、配管むき出しでやや見苦しい印象もある。
3	<p>将来の社会状況・自然環境の変化に応じた柔軟性の確保は必須となる。他方で、どこまで柔軟性を保つかについては、</p> <p>①予測される来庁者数（区内の居住者数や通勤者数など人口動態に関する客観的条件や、区として各種申請などをどの程度まで庁舎でおこない、どの程度までオンライン化するのかなどの判断に関わる）</p> <p>②来庁者のニーズをどう捉えるか（たとえば、来庁者にとって移動しやすい動線を主として考えるか、来庁者に移動の負担をかけずに職員が移動する動線を主とするか）など、基本的なデータやコンセプトに応じて決定されるべきである。</p>
4	前回と同様だが、今後の人口減少や、AI・ICT技術の進歩、また感染症対策等、予測困難な将来の変化や需要に対応できるユニバーサルレイアウトの採用が必要かと思われる。ご用意頂いた資料で中野区のスケルトン・インフィルや山口市のロングスパン化の採用を紹介しているが参考にすべきと考える。
5	前回にも申し上げたように今後時代のニーズがどのように変化していくのか、想定内の進歩、想定外の進歩とフレキシブルに対応できる余力のある設計を希望します。
6	将来の行政機能の在り方についてのハード・ソフト両面での長期予測
7	対面での区民サービスを前提とした業務の今後の見通し

8	新しい庁舎につきましては、ICT化がよりすすむものと思われ、窓口だけではなく、端末などの増設などにも容易に対応できる作りであってほしい。
9	8ページ→「インフィル」を採用することで、プライバシーの保護は保たれるのでしょうか？
補足説明	・スケルトンインフィルとは、柱や床という建物構造と内装や設備等を切り分けて工事を行うことで、将来の改修や設備更新に対応しやすい計画とするという考えですが、それによって「プライバシーの保護」が出来なくなることはありません。
10	9ページ→「ロングスパン化」で地震の安全性は保たれるのでしょうか？区役所は災害時の拠点です。子供たちの駆け込み寺の機能もあると良い。
補足説明	・ロングスパン化により、柱を少なくすることでレイアウトの自由度が高められます。ロングスパンは、梁を受ける柱を太くする方法等で構造上問題が無いよう設計します。
11	執務空間や機能など使い方を柔軟に変化させる構造とする
12	スケルトンインフィルの考え方が良いと思います。建物を建設する際に現場管理事務所を作るとは思いますが、現場管理事務所を将来の改修する為に、データ等を測定できる管理棟の目的で建てる方法はないかと思いました。将来できる新しい技術は今の段階で予測できないですし、現場事務所は修繕や改修する際には必ず必要になると思います。
13	インフィル・スケルトンはとても理にかなった考え方であると思います。特に、建築設計者・建築施工者に、将来の柔軟性に関する要望を整理して渡しておけば、相応の建築的な対応をしておいてもらえると思います。（例えば、壁を、完全に固定するか、簡単な工事で取り除けるようにするか、最初から移動可能なものにするか、などの的確な選択をしてもらえると思われます。）
14	スケルトンインフィル構造と両端コア・中廊下型プランは良いと思うが、区民が利用する中央のロビースペースが狭くなると、現庁舎の不便性と変わらないのでロビーは広いスペースが必須。

4 ユニバーサルデザインについて

番号	意見の内容
1	証明書発行、あるいは福祉部署関連の移動スペースは、車いすなどにとってゆとりのある面積、幅員が必要、駐車場、タクシー乗り場などの来庁スペースとの動線も配慮必要
2	ユニバーサルデザインの導入を前提とした上で、より広く区民の方々に利用していただけるような（たとえば親子にも優しい）明るいデザインと文化的な施設の設備を進める必要がある。逆に、広く区民の方々が利用するためにも、ユニバーサルデザインの採用が望ましい。
3	前回は述べたが、「書かない窓口」などソフト面でのユニバーサルデザインは今後さらに拡充していく必要がある。ハード面ではやはり、車いすやベビーカー等が移動しやすい動線の確保、センシティブな福祉部門、生活相談や子育て相談等といったプライバシーが確保できる受付・相談スペースを設ける必要がある。
4	平時と有事（災害時等）両方に通用するユニバーサルデザインが特に低層階においては必要となってくると思います。災害時等で使用する際の機密の保持も重要です。
5	新しい庁舎には、ホールなどが併設され、区民等が多数利用できるものであって欲しいと思います。現在、駅前にきゅりあんがありますが、エレベーターの利用がほぼ必須なのは、障害者にとっては大変不便。同時に区民や団体が気軽に利用できる会議室などのスペースも低層階にあってほしい。いろいろなイベントで区民が集まってくる場所であって欲しい。
6	バリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入は必須であり、誰でも来庁しやすいサービスの提供（トイレ、音声ガイド、タブレットの利用等）
7	10ページ→来庁者だけでなく、働く人にとっても使いやすいトイレを作って頂きたい。
8	11ページ→ユニバーサルデザインとともに「あたたかみのあるデザイン」でもあって欲しい。老若男女、誰にもやさしい（視覚的にも）設備が良いと思います。
9	13ページ→重度障害者用トイレは必ず設けてほしい。障害がなくとも使いたい人はいる。

10	ユニバーサルデザインの導入により、すべての来庁者が不自由なく利用できるような建物、トイレを含めた設備にするとともに、庁舎へのアクセスについても十分に配慮されたい。
11	ユニバーサルデザインは当然の検討事項ですが、他参考例での問題点検討が必要で、その上で利用者にどう使用してもらえるかになります。
12	トイレについてはジェンダーフリー型が可能かどうかの検討も加えてください。
13	ハード面に関しては、市庁舎単体として考えるよりも、市庁舎までのアクセスを総体として捉える必要があるでしょう。駅プラットフォームからの上下動は何回あるのか、雨に濡れない手段はないか、駅改札口からは高架下を歩くことになるのか、など。その意味でも敷地・ボリューム・配置検討段階への市民参加を引き続き希望します。
14	ソフト面に関して。サイン計画における視認性とデザインの優劣について意見がありましたが、これは両立することだと思います。公共施設でいつも感じることは、ポスターや手書き案内の張り紙による親切心からの視覚情報が氾濫し、かえってサイン誘導を阻害していることへの疑問です。品川区役所でも窓口担当職員のほかに受付番号を発券するために立っている職員が大勢いらっしゃいます。手厚い対応はとても助かるのですが、案内と誘導プロセス（用紙記載や発券機の配置、電光掲示、アナウンス、ベンチ配置等）の「デザイン」が上手く解けていないことのあらわれだとも感じます。
15	ユニバーサルデザインの対象に「人種」も入っています。例えば「住民票や戸籍謄本、出生届などの英文証明」の発行。区が指定する英文ひな形を数種類用意し、名前や続柄、生年月日など、職員による照合が簡単な事項をローマ字で記入してもらおうという簡単なシステムの構築であり、練馬区では何年も前から実施しています。品川区はどうでしょうか。
補足説明	○品川区の外国人向けの受付システムについて 練馬区に確認したところ、ご指摘の英文証明は、区が発行する住民票を、区民が英文翻訳し、その内容を職員が確認したうえで証明するものです。品川区では、このようなサービスはしていません。 また、ご提案のようなシステムの構築は今後の検討課題です。

16	<p>11ページ、ユニバーサルデザインという点では「私たち抜きに私たちのことを決めないで」との障害者権利条約の精神にのっとり、フロア配置や動線やサイン、トイレ、手話案内サービスなどの施設整備やサービスの具体的な検討に、障害当事者の参加を保障し進めることを求めます。</p>
17	<p>性別や性自認の在り方に関わらず、気兼ねなく使えるジェンダーフリートイレの整備を求めます。</p>
18	<p>ユニバーサルデザインの導入はとてもいいことだと思いますが、実際どのようなことが導入されるのかが想像できません。トイレやフロアぐらいしか思いつきません。将来の変化への柔軟な対応ができる庁舎でユニバーサルデザインが継続して維持できるのであれば問題ないと考えます。</p>
19	<p>「ユニバーサルデザイン」については、p11にありました「7つの原則」を基に、進めて頂きたいと思いました。P12の他自治体例はとても参考になりました。まだまだアイデアがあるような気がします。これらのようなアイデアが飛び交い、実現できるような柔軟性のある庁舎であるとともに（ハード面）、それを実現して頂く職員さんチームの皆様の環境整備と教育の充実を合わせてお願い致します。（ソフト面）</p>
20	<p>例えば、ユニバーサルデザインを検討するのであれば、品川区のバリアフリー基本構想の策定（改定）と連動させて、障がい者団体、子育て世帯等の方々を組み込んだ庁舎検討推進協議会のような位置づけをして、バリアフリー整備ガイドラインに基づいた設計時、施工中（取付位置の確認等）、施工後の各段階で協議できるような仕組みを作って、庁舎に必要な整備レベルを意見として受け、それを反映する体制づくりが必要だと思います。</p>
21	<p>今回のユニバーサルデザインで例示されている、ソフトの取り組み、ハードの取り組みについて、事務局として委員に何を問いたいのかが、よくわかりませんでした。それは、品川区としては、現段階でハードとソフトに対しては、このようなサービスレベルとして整備イメージを持っているとの考え方や方針（10頁の内容がそのようなのでしょうか？）が示されていて、その中で、他の自治体では、例えば新庁舎建設に際しこのような整備がなされているが、品川区ではどのレベルまで具備すべきかと伺いたいのでしょうか？そうすると、やはり機能というより、設計要件に近くなり、この委員会でもここまで検討するものなのかな～とってしまいました。</p>

補足説明	<p>・整備事例については、各回の資料で導入機能毎に掲載していますが、あるべき姿を達成するために必要な取り組みの事例を紹介するものです。現段階では、設計要件を決める段階ではなく、事例に対する検討を求めるものではありませんが、次年度以降の基本構想・基本計画の策定段階においては、それぞれ十分な議論が必要だと考えています。</p>
22	ユニバーサルデザイン、バリアフリー等に配慮した庁舎の整備をお願いしたい。また、わかりやすい導線の確保など、来庁者に寄り添った整備もお願いしたい。
23	ユニバーサルデザインでは、乳幼児を連れた母親のための授乳室、オムツ交換のできる部屋が必要。

5 ICT化やペーパーレス等の環境整備

番号	意見の内容
1	<p>セキュリティを確保したうえで、Wi-Fiを整備してフリーなレイアウトで執務できる環境整備は必要。役所という文書重視・保管必要の文化ではフリーアドレス化はなかなか一気に進まないが、将来的に志向する必要がある。某市のように、執務室のゾーニングを3段階に分けることもアイデア。</p> <p>①執務スペース（関係者外禁止） ②相談対応のオープン型の執務ゾーン（従来のカウンター機能と関連フリーアドレス席）ここに着席する職員は交代制 ③市民対応窓口スペース＋フリー交流スペース</p> <p>それぞれのゾーンに対応したIT環境が必要（強靱化モデルの区分に対応）。窓口受付の予約、誘導、ワンストップ対応、非来庁対応のシステム整備も必要。</p>
2	<p>ICTの導入も必須で、庁舎内サービスの充実（案内や誘導のためにもWi-Fiの導入が役立つ）、緊急事態時の会議や連絡システムの確保、また審議会などの公開手段としても利用可能なことを意識する必要がある。</p>
3	<p>主にソフト面の話になるが、ハード面の考え方にも関係するので以下、述べる。コロナ禍を受けて、従来、情報弱者と言われてきた高齢者の区民が必要に迫られ、スマートフォンやタブレットを導入し、操作を覚えておられる例を現在進行形で多数見ている。こうした状況を見れば、今後、オンラインで自宅からの申請や手続きの拡大が可能となってくると思われるが、併せて分かりやすい表示や問合せ・入力方法が必要になってくる。例えば昨年の「しながわ活力応援給付金」申請の際、区内企業が開発した問合せチャットbot機能は24時間体制であり、やり取りに一定の制約はあったものの、いつでも対応してくれる安心感を区民に与えた。セキュリティ確保も含め、AIの活用、ICT事業の者との更なる技術開発、コラボレーションが重要ではないかと考える。</p>

4	アクセスポイントの拡大により自席以外でのパソコン等の利用が可能になった場合の情報管理は、より厳重なものが必要と考えます。
5	職員のタブレット貸与により職員が移動することで来庁者の負担を軽減
6	ICT化が区民向けであれば、来庁せずに対応するための分散型庁舎機能の検討強化を図る上での情報ネットワーク整備として新庁舎にハードベースの整備が伴うものもあれば、ソフト対策で済むものもあるので、品川区としてどう位置づけるかによって、その扱いが変わると思います。
7	来庁者であれば、受付時、待機時、移動時、等の接遇対応を人的にサポートするのか、空間的整備により来庁者自身が行動するのかにより、提供すべきサービス機能の質が異なると思うので、まず、そのあたりの現在の考え方や方針があれば伺いたい。特に、ICT化は効率性を高めるが、区民と直接関わらなければならない内容を扱う部署毎に、相対型対応を残す空間の配置が必要となると思います。
補足説明	・可能な限り来庁者自身で行動できるような空間整備を大前提に、来庁者の状況によって、必要な人的サポート体制も不足が無いよう体制を整える必要があると考えています。それらの方針を今後、設計と条件として設計者に明確に示しつつ、ソフト面も並行して具体的に設定していくことが必要と考えています。
8	ICT化の環境整備は、これから必須の導入機能になると思います。その中で、区民の方向けのICT化か、来庁者のためのICT化か、職員のためのICT化かなのかをもっと明確にする必要があると思います。
9	職員向けの場合は、業務が多岐に渡っているので、資料作成や会議運営等の業務負荷軽減に向け、最新事例を参考にした検討は有効だと思います。
10	ICT化の職員の業務体系ですが、昨今のコロナ禍によりテレワークやリモートでの会議を会社も高校、大学なども多く取り入れていたが、区役所の職員はいつ庁舎へ伺ってもフルに出勤し働いている印象がありました。テレワークや在宅勤務を真剣に考えて取り入れた方が良い。

11	ICT強化の際は、庁舎内のアクセスのみではなく、13の地域センター、小・中、義務教育学校とのアクセスも。職員だけでなく、区民や保護者もつながりやすい環境にしたい。
12	各回でそれぞれの立場から議論されている内容の充実はさることながら、とりわけ重要なのは来庁者にわかりやすいことです。新庁舎の開庁はまだまだ先で、この先も技術革新があることでしょうか、時代に合わせ様々な環境に対応できる庁舎であること、そして時代は変われど、用がなくても自分の足で気軽に訪れることができる庁舎であることが重要で、児童センターや多世代交流施設、図書館など文化施設なども考えてみたいと思います。 時代に合わせたICT化と人と人が交流できる場作りが重要かと考えます。

6 セキュリティ対策

番号	意見の内容
1	3段階のゾーニングだが、関係者外秘の執務スペースが一番大きいとか、中がまったく見えずに仕切り壁で区分されているなどすると、かなり閉鎖的（親しみのない）印象を持たれてしまう。 節度ある大きさや窓ガラスで視覚的に開放感があるようにしたりする工夫が必要。 (5 ICT化やペーパーレス等の環境整備 意見番号1の補足意見※事務局追記)
2	資料の中で、セキュリティ確保のために世田谷区の待合室を執務室に向けない構造が紹介されているが、利用する区民や職員の心理的負担軽減のためにも、お互いの視線の角度や呼び出しの方法（肉声なのか、合成音なのか、分かりやすいディスプレイ、併用等）を徹底的に検討すべきかと思う。※仕方ないことではあるが、ランチタイム時や職場での飲食を目にするだけで不快に思う区民も中にはおり、「開かれた区役所」イメージとの間で職員は厳しい職場環境に置かれている。
3	行政機能の入館には都庁と同じく、入館証の導入を希望します。
4	17ページ→庁舎内に救急車が入れることが必要。また救急隊員が活動しやすいようにする。以前に油をもって役所に入って放火した人がいました。こうした犯罪への予防等も必要と思います。
5	事務処理を円滑に行い、情報の漏洩防止や災害時の情報保護を図っていくため、入退出などのセキュリティ対策を実施されたい。

6	セキュリティ対策では、現在私たち青少年委員として日曜日の活動が多く、たびたび庁舎を訪れますが、職員同伴でなければ入庁できません。将来的には、マイナンバーカードと紐づけして、活動エリア限定で入庁できるのではないかと思います。ICカードを発行するよりも、手間が省かれると思います。
7	ICT化、セキュリティ対策もぜひ強化して下さい。特にセキュリティ対策は本資料では程度がわかりませんが、安心、安全、衛生を踏まえたと少し厳しいと思うくらいのレベルで良いのではと考えました。

7 その他

番号	意見の内容
1	資料NO. 4及びNO. 5に記載されている今回の検討テーマに示されている案の方向性で進めて行けばいいと思います。
2	カーボンニュートラルの時代要請にあった再生エネルギーの活用
3	駅前ということで、大井町を通過する路線バス等は必ず庁舎前に停車できるようにバス停の配置などを検討して欲しい。
4	使用できる面積を最大限に利用し、高層階ではない（10階程度）ワンフロアを広くとる構造、華美ではなくメンテナンスしやすい外部構造をお願いしたい。
5	フロアは窓口階に、戸籍住民手続き関係、あるいは総合福祉関係を置き、ワンストップフロア方式と、来庁者の移動をスムーズなものとする。
6	入口は現庁舎正面側と広町側に、二か所設置し、階層を異なることにより来庁者が選択できる。
7	総合案内窓口を各フロアに設置し、フロアマネージャーの習熟度の向上をお願いしたい。
8	最後に、発災時を想定し、防災関係機関は地上からフラットで出入りできる低層階に設置しながら中央公園との導線もぜひ検討して頂きたい。

9	<p>コロナ等の感染症や災害時等で区民が利用できる機能の充実を強く希望する。問題をたらい回しにされない、窓口の充実と各団体の地域的な集中を望みます。</p>
10	<p>光熱水費などランニングコストの削減を図るとともに、災害対策にも機能を発揮し、災害時の要ともなる、省エネルギーの活用を検討されたい。</p>
11	<p>ようやく「現状と課題」として問題点が提示されたことは良いと思います。もう少し多くの「現状と課題」を提示して欲しいです。現在の検討事項は通常検討される内容ですが提案方向性は良いと思います。</p>
12	<p>公募申込用紙にも書きましたが、ぜひ検討内容に加えて頂きたいこととして職員用専用トイレ、職員用リフレッシュルームの余裕あるスペース確保と執務スペースで机の配列の仕方です。ほとんどが縦割り行政的な並行・並列ですが、あまり例が無い半円形型・扇型・斜め型と色々な配列を検討して欲しいです。</p>
13	<p>(検討会全体、進め方、まとめ等に関する意見) 新庁舎建設の具体化は中止・延期し、2024年度新庁舎建設などのスケジュールは白紙にすることを求めます。現在の行政の最優先・最重要の課題は、区民の命・暮らしや営業へ大打撃を与えているコロナ禍への対応です。それには言うまでもなく、医療・保健衛生部門への支援強化や検査の拡充、休業補償など、莫大な予算と人材確保・体制が必要となります。 目下、新庁舎の検討を拙速に進める状況にはありません。また、新庁舎建設には数百億円規模の莫大な経費も必要になりますが、そうした数字すら、概算や検討経過も含めて全く明らかにされていません。新庁舎の検討は、情報公開と区民参加を徹底し、十分な時間をかけて行うべきだと思います。</p>
14	<p>新庁舎建設の検討は最初からJR東日本の大井町・広町地区開発と一体に密室で検討されてきましたが、開発とは切り離し、徹底した情報公開と区民参加で時間をかけて丁寧に進めることを求めます。世田谷区での新庁舎整備検討のように、基本構想、基本設計方針、基本設計など各段階において、徹底した情報発信と区民参加を貫き進めるように求めます。具体的には、①無作為抽出も含めた十分な人数の公募区民が参加する検討委員会、13地域センター管内毎の報告会・意見交換会、パブリックコメント、シンポジウム、関係団体ヒアリング、公開プレゼンテーション、ワークショップ等の実施・開催。②区報、区HP、SNS、近隣住民へのチラシ配布、庁舎内での情報発信場所の設置等による情報発信。以上大きく2点を求めます。</p>

15	<p>現在の新庁舎建設候補地、いわゆる「D案」（区有地とJR敷地の再編上、現庁舎隣の8300㎡の敷地に新庁舎を建設する案）は、白紙撤回することを求めます。議会にも、反対意見があり、正式な議決等もなされていない中、区が「(議会に)概ね承諾された」と、D案を前提に検討を進めることは承服できません。また、検討報告書を情報公開請求しても「黒塗り・非公開」など、区民に情報を隠して一部の企業（JR東日本、日建設計）とのみ、密室の検討で出された案は、区民の理解も支持も得られていないものです。面積なども含め候補地についても、一から情報公開と区民参加で検討し決定していくことを求めます。</p>
16	<p>現状のまま、庁舎機能検討委員会の「答申」を出すことを反対します。庁舎機能の検討は、「防災機能」や「環境」、「窓口」、「協働」など、テーマに分けて計3回議論されましたが、それぞれのテーマが、2時間弱、1回きりの議論だけで答申を出すというのでは、検討委員会の議論として、あまりにも不十分です。このような形で答申を出すことは承諾できません。それぞれのテーマごとに、分科会やワークショップ等を設け、新たな委員も募り、専門家や関係当事者団体等からの委員も加え、十分な議論を重ねた上で、答申をまとめていくという丁寧な検討の進め方を求めます。</p>
17	<p>個人情報漏洩等の問題が多く区民の賛否が分かれているマイナンバーカードは進めるべきではありません。区民の利便性を高めるICT化や電子申請の推進は大切なことですが、マイナンバーカードの普及とは切り離して進めるように求めます。</p>
18	<p>「ライフサイクルコストの低減」や「長期間有効に使い続けられる庁舎」は、是非進めてください。ただ、例として挙げて頂いた市川市の（p7）の場合、分散している分庁舎や賃貸事務所の統合例は、効率が良いと思いましたが、この物理的効率化が、行政サービスの向上につながるかは、この資料だけでは疑問です。分散しているメリットもあると思いますので、品川区に合った効率化と行政サービスのバランスを踏まえて検討して頂きたいと思います。</p>
19	<p>一番目に感じたことは「導入される機能」の検討に沿った内容といえるかという違和感を覚えました。【共通機能】の検討枠に位置付けられていますが、ライフサイクルコストの削減や、ユニバーサルデザイン、セキュリティ対策は、「具備されなければならない設計要件にあたるものではないか」と思い、「導入機能」としての検討内容ではないと思います。</p>

<p>補足説明</p>	<p>・自治体によって様々な表現をしており、その中で体系化のイメージが最も近い北区の例を参考にしました。求められる庁舎機能が、基本構想等における基本方針に該当するものですが、共通機能に分類した項目は、整備方針のどれかに紐づくものではなく、全体に共通するものという意味で共通機能と整理しています。基本構想策定段階でより適当な表現方法を検討します。 世田谷区：個別機能（整備課題）、横浜市：備えるべき機能・求められる性能、北区：共通機能・基本機能</p>
<p>20</p>	<p>②ライフサイクルコスト・柔軟な対応・ユニバーサルデザイン・ICT化・セキュリティなどの全般について 未来にどのような変化が起こることは、予期することは不可能な面があると思います。そのために、整理しながら、考え方や対応の仕方を決めていく必要があると思います。学術では、このような課題に対して、通常、「不確実性」や「複雑性」などによって、整理しています。例えば、「大きな災害対策の要望」について「不確実性」を考えると、5~10年前は、津波、震災、原子力などについて多くの要望が寄せられ、その後、台風・河川氾濫、そして感染症対策へと移行してきました。これらは、10年前には想像することが不可能とも考えられ、「不確実性」が大きいと考えられます。一方、これらの「複雑性」を考えると、震災や感染症対策は様々な要望があり複雑なものとなりますが、原子力については発電所を使用するかの選択が中心と考えれば、複雑なものとはならないと思われます。このように、「不確実性」の高・低、「複雑性」の高・低の4つの分類をし、整理をしながら、漏れのない議論をすることができると思います。 その他、「新規性」、「多義性」、「可変性」、「多様性」が使われることが多いと思われます。 議論の対象は、今回の「ライフサイクルコストの低減」、「柔軟性の高い環境の整備」、「ユニバーサルデザインの導入」、「ICTの活用による窓口サービスの充実や業務の効率化」、「セキュリティ対策の強化」すべて、あてはまると思いました。</p>